

## 第32軍司令部壕詳細調査 令和5年度調査の結果報告

### 1. 未発掘区間調査(ボーリング調査)について

首里城の木曳門付近の3地点(地点⑨～⑪)で調査を実施した。地点⑨及び地点⑩で坑道の床面と考えられる層が確認できたが、残念ながら坑道内部が崩落し、土砂により閉塞していることが確認された。また、地点⑪においては、坑道の床面を捉えることはできなかったが、坑道の崩落面と考えられる地層を確認したことから、地点⑪においても坑道内部が崩落し、土砂により閉塞しているものと考えられる。

調査の成果としては、坑道内部が閉塞し三次元点群測量を実施できなかったものの、これまで米軍しか確認したことのない壕の中心部付近の存在や位置を初めて確認できたことである。

### 2. 第1坑口の試掘・表土除去調査について

地表から約 3.0m の深さに 1963 年頃に那覇市調査によって敷き詰められたと考えられる床板(木材)が確認され、それを部分的に撤去し、さらに掘削したところ地表から約 4.0m の深さに第32軍司令部壕の入口付近の床面や柱、床板等が出土した。

出土状況を県文化財課の立会により確認していただいたところ、第1坑口付近を捉えていると考えてよいとのこと。しかし、坑口の天井部分は既に崩落しており、支柱や梁等の構造物はほとんどが消失していると考えられる。

調査の成果としては、これまで米軍や 1960 年代の那覇市の調査でも確認できていなかったと考えられる第1坑口の正確な位置を確認することができたことである。

### 3. 第5坑口試掘・表土除去調査について

坑口前面の土砂の盛り上がり部分を中心に掘削を行ったところ、地表から約 1.5m～2.0m の深さに第32軍司令部壕構築当時に使用されていたと考えられるトロッコのレールが出土した。

現場の状況から、現在扉が設置されている位置と当時の坑口の位置は概ね一致しているのではと考えられるが、それを確認するためには、現在の扉の撤去やその前面に敷設されているコンクリート床面の撤去が必要となる。

調査及び遺構の記録は既に終了し、現在は遺構が風雨にさらされないよう土砂等により一部埋め戻されている。

調査の成果としては、第5坑口の本来の位置を概ね絞り込めたこと、新たにトロッコのレールを発見したこと、第5坑口前面の当時の地形を確認できたことなどである。